

事業事前評価表

1. 案件名 (国名)

国名： スリランカ民主社会主義共和国

案件名： バンダラナイケ国際空港改善事業フェーズ2

L/A 調印日： 2012年3月28日

承諾金額： 28,969百万円

借入人： スリランカ空港公社 (Airport and Aviation Services (Sri Lanka) Limited)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における航空セクターの開発実績 (現状) と課題

島国であるスリランカにとって、空路と海路が国外との旅客輸送の手段である。現在唯一の国際空港であるバンダラナイケ国際空港 (通称コロンボ国際空港) は、世界主要31都市に就航し (2011年現在)、空路での物流、旅客輸送の拠点となっている。2009年の紛争終結後、経済成長を背景として増加している旅客取扱数は、2011年中に現行の旅客ターミナルの取扱容量 (600万人/年) を超え (610万人)、搭乗橋ではなくバスを利用し乗降する等の利便性・安全性に支障を来しており、ターミナルの拡張が喫緊の課題となっている。

(2) 当該国における航空セクターの開発政策と本事業の位置付け

2009年の紛争終結による国の安定化を踏まえ、現ラージャパクサ大統領が発表した「マヒンダ・チンタナー未来に向けてのヴィジョン」では、速やかな経済成長と経済構造の変革を目指しており、航空セクターにおいては、各国との航路を拡大し南アジア地域のハブを目指すとしている。バンダラナイケ国際空港は、首都の玄関口と位置付けられ、安全性が高く国際基準を満たしたハブ空港として開発していくと定められている。

(3) 航空セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

我が国の「対スリランカ国別援助計画」(2004年4月)では、援助の方向性として、「経済基盤の整備に向けた制度改革と援助」を掲げている。JICAは事業展開計画において、民間セクターへの投資拡大に不可欠なインフラ整備を促進するため、交通運輸インフラ整備を開発課題と位置付けており、本事業はこれらの方針と合致している。

これまでに JICA は 1983 年に「コロンボ国際空港整備事業」(SL-P6)によりバンダラナイケ国際空港への支援を行っており、着実な事業効果をあげている。その後、1997年 JICA 支援による開発調査「コロンボ空港改善事業連携実施設計調査」が実施され、「コロンボ国際空港改善事業」(SL-P62)により搭乗橋を伴うターミナルビルが新設された。

(4) 他の援助機関の対応

バンダラナイケ国際空港は、1959年に国際線の運用を開始し、1981年にオランダの支援によるマスタープランが作成され、1984年から88年にかけて、日本、英国、フランスの支援により滑走路の新設及び旅客ターミナルビル等の新設・拡張を含む大規模開発を実施した。

また、バンダラナイケ国際空港を補完する位置付けとして、2012年開業を目指し、スリランカ南部の都市ハンバントゥータに第二の国際空港を、中国の支援で建設中である。

(5) 事業の必要性

年間の旅客数は、現行の旅客ターミナル旅客取扱容量 (600万人/年) を 2011年に超過したところ、増加する需要に対応したバンダラナイケ国際空港のターミナル拡張と整備は、喫緊の課題となっており、スリランカ政府の方針、我が国及び JICA の支援方針に合致し、同国の経済成長にも大きく貢献する本事業を JICA が支援する必要性・妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、バンダラナイケ国際空港において、旅客ターミナルビル及び駐機場等を整備拡張することに

より、増加する航空旅客需要へ対応すると共に、同空港の利便性・安全性向上を図り、もってスリランカの経済発展に寄与するものである。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名 : 西部州ガンパハ県カトナヤケ (コロンボ北方約 30 km)

(3) 事業概要

- ① 旅客ターミナルビルの増設、高架アクセス道路、附帯設備等の整備
- ② 駐機場、焼却炉の整備
- ③ コンサルティング・サービス (入札評価補助、施工監理)

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費 36,016 百万円 (うち、円借款供与額 : 28,969 百万円)

(5) 事業実施スケジュール

2012 年 3 月～2016 年 12 月を予定。

施設供用開始時期 (2015 年 12 月) を持って事業完成とする。

(6) 事業実施体制

- 1) 借入人 : スリランカ空港公社 (Airport and Aviation Services (Sri Lanka) Ltd. (AASL))
- 2) 保証人 : スリランカ政府
- 3) 事業実施機関 : スリランカ空港公社 (Airport and Aviation Services (Sri Lanka) Ltd. (AASL))
- 4) 操業・運営/維持・管理体制 : 上記 3) に同じ

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類 : B
- ② カテゴリ分類の根拠 : 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010 年 4 月公布) に掲げる空港セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域またはその周辺に該当しないため。
- ③ 環境許認可 : 本事業に係る環境影響評価 (EIA) 報告書は、同国国内法上作成が義務付けられていない。
- ④ 汚染対策 : 施設内で発生する汚水については、空港敷地内にある汚水処理施設にて浄化処理をすることで、同国国内の環境基準を満たす見込みである。
- ⑤ 自然環境面 : 事業対象地域は国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。
- ⑥ 社会環境面 : 本事業は、実施機関の所有地内で実施されるため、用地取得及び住民移転は伴わない。
- ⑦ その他・モニタリング : 本事業では、実施機関が工事中の騒音、粉塵等、及び供用時の焼却炉からの排ガスや下水処理水質等について同国の環境基準等と整合し適切に対応しているかモニタリングする。

2) 貧困削減促進 : 特になし。

3) 社会開発促進 : 実施機関がワーカーの HIV/エイズ感染予防対策を行う。

(8) 他ドナー等との連携 : 特になし。

(9) その他特記事項 : 省エネ技術を活用した空調システムや、航空機発着案内システム等の日本政府が推奨するエコエアポートの概念導入等により本邦技術適用案件。

4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) 運用・効果指標

指標名	基準値 (2010 年実績値)	目標値 (2017 年) 【事業完成 2 年後】
年間発着数 (回)	34,088	60,290
年間国際旅客数 (百万人/年)	526.0	907.0
スリランカ人 (百万人/年)	326.7	563.7

外国人 (百万人/年)	130.8	225.7
トランジット客 (百万人/年)	68.5	118.0
搭乗橋利用率 (%) (搭乗橋利用機/年間発着数)	85.91% (2011年 79.7%)	80%以上

2) 内部収益率:

【FIRR】 7.06%

費用: 事業費、運営・維持管理費 (空港スタッフ備人費、光熱費含む)

便益: 空港収入 (着陸料、搭乗橋利用料、出国税、免税店テナント料等)

プロジェクトライフ: 25年

【EIRR】 11.81%

費用: 事業費 (税金を除く)、運営・維持管理費 (空港スタッフ備人費、光熱費含む)

便益: 空港収入、観光客からの収益等

プロジェクトライフ: 25年

(2) 定性的効果

スリランカ経済成長への貢献

5. 外部条件・リスクコントロール

治安状況が維持されること。

6. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

「コロンボ国際空港改善事業」の評価において、契約パッケージを細かく分けて調達した結果、事業費は安価に抑えられたが、事業工程に遅れが生じたことが指摘されている。

(2) 本事業への教訓

本事業では、実施機関の管理能力を考慮し、工期及び競争性確保の双方について考慮した契約パッケージとすることにより、事業工程に影響が生じないように配慮していく予定である。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

- 1) 年間発着回数 (回)
- 2) 年間国際旅客数 (百万人/年)
- 3) スリランカ人 (百万人/年)
- 4) 外国人 (百万人/年)
- 5) トランジット客 (百万人/年)
- 6) 搭乗橋利用率 (%)

(2) 今後の評価タイミング

事業完成2年後

以上